

第7次総合計画の策定推進方針

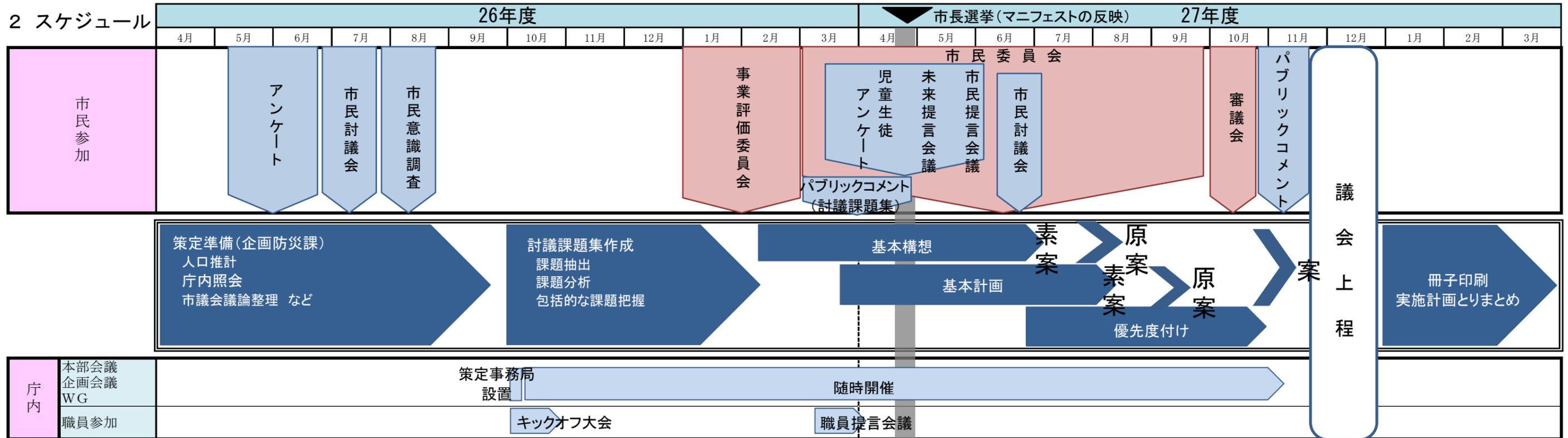
平成27年3月10日

資料5

1 策定推進方針

- 人口減少・少子化・高齢化(人口急増当時の団地の住民の高齢化等)において本市の持続性が問われている中、本市の持続や成長にどういった政策・施策が必要であるかを市民とともに広く議論する。
- 「子どもの目」「大人の目」「女性の目」「男性の目」の4つの目により広角的な視点で議論する。
- 合併算定替や合併特例債により背伸びした財政規模を身の丈に合った規模とするように政策・施策を選択することとする。

2 スケジュール



※ 議会については、別途調整。(6次総後期策定時には、13回の特別委員会を開催。)

3 市民参加

(1) 市民による委員会

事業評価委員会	概要	総合計画の進行管理を担う既設の委員会。6次総の成果を評価するとともに、次期総計策定の討議課題を整理する。
	構成	9名で構成。 大学教授、税理士、金融機関職員、公募委員などで構成。
策定市民委員会	概要	市民とともに計画を策定することを眼目とした委員会。基本構想・基本計画各々の素案・原案づくりを執行部とともに進行。
	構成	15名以内で構成。 4～5回程度の開催を予定。
審議会	概要	総合計画の策定について必要な事項の調査及び審議を行う。
	構成	学識経験者、産業界の代表、市民団体等の代表、公共団体等の代表それぞれ5名以内の計20名以内で構成。

(2) 市民参加のしくみ

- 市民提言会議について
広く市民で議論するしくみとして、各種団体からの選出者、無作為抽出市民等により、必要な政策・施策について議論する。
議論の方法としては、政策の柱と各種団体の活動内容とを照らし合わせて10名程度のグループ化を複数設定する。
- 未来提言会議について
将来の多治見市を担っていただく市内在学高校生を対象に、多治見市の現状を踏まえて「多治見市の目指すべき姿」を議論する。
- 児童生徒アンケートについて
小中学校の児童生徒を対象とした将来の多治見市に関するアンケートを実施する。
- 市民提言会議と策定市民委員会の役割について
市民参加による議論を重層的なものとするために両会議を設定する。市民提言会議においては各種団体の周辺でおきている状況、ニーズ、討議課題集等をもとにどういった施策が必要なのかを議論する。
策定市民委員会では、市民提言会議で議論された内容を参考にして基本構想・基本計画の素案・原案の内容について議論する。

4 職員参加

(1) 策定本部

策定本部会議は、政策会議とみなす。
企画会議は、調整会議とみなす。
企画会議の中に、策定WGを分野ごとに設置する。

(2) 職員参加のしくみ

- 策定WGについて
策定WGの構成者数を多くし(特に若手職員)、広範囲に関与できるようにする。
- 職員提言会議について
職員間で議論するしくみとして、討議課題をベースに必要な政策・施策について階層別(主事、主任、主査等)や職場別(幼稚園・保育園・消防等)で議論する。